

## <白金標準、WPIC、プラチナ 2 年連続供給不足・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第3四半期 PGM 需給報告では、2023年のプラチナ需給バランスが100万オンス超えの33トンの供給不足を予想し、2024年も11トンの供給不足を予想するなど、2019年、20年以來の2年連続の供給不足となる可能性を指摘している。特に供給では2023年、24年ともに鉱山とリサイクルからの供給がいずれもコロナ過以前の水準を大幅に下回る予想であり、需要では2023年の工業用需要は過去最高となり、24年は過去3番目になると予想している。またロシアのノリリスク・ニッケルでは2024年に大規模な製錬所の建て替えを予定しており、南アフリカでも一部のプラチナ鉱山は計画的なメンテナンスが予定されている。ただ今回の報告には反映されていないことから、不測の事態が起こると供給量は低下する可能性は残ると思える。また水素燃料電池が世界の自動車市場の10%で使用された場合、年間500万オンス(155トン)のPGM需要を生み出す可能性が指摘されており、需給バランスで考えると価値の見直しが起こってもおかしくなく、2024年にはNY白金で1000ドル、白金標準先物でも4700円へ向けた値動きが強まると思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇しており、RCIは短期が高値を維持し、長期は切り上げている。特に日足が10日移動平均線を上回って存在しており、強気の域と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,360,000 円(2023 年 11 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2023 年 11 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>